

令和6年度 江戸川区立葛西第二中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで学ぶ生徒になろう あたたかい豊かな心の生徒になろう 健康でたくましい生徒になろう 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	生徒が喜んで活動し、一人ひとりの確かな学力や個性、社会性を伸ばし保護者・地域から信頼される学校 本校で学ぶことに誇りをもち、主体的に粘り強く、豊かな社会性や思いやりをもった生徒 生徒一人ひとりの成長やそれを支える教育活動に最大の努力を惜しまない教師
前年度までの本校の現状	成果 ①教職員の情報共有を一層円滑に実践し、教育活動の多くを新型コロナ以前の状態に戻すことができた。 ②校舎改築による令和6年度からの学校生活に対する不安を払拭するため、目標と見通しを定めた教育活動の実践を図り、大きな混乱のない年度を終えることができた。	課題	①本校での勤務歴が長い教員の多くが定期異動となるため、次年度の教育実践への組織的対応が求められる。 ②上記内容に準じ、各教育活動における質の維持、向上が課題である。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)			「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	重点に対する総括コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	「教員の学習指導力向上と生徒の学力向上」 ○全国学力・学習状況調査・江戸川区学力調査の活用	各取組みの結果分析に基づいた指導の充実と、教員の学習指導力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査における東京都の中央値以上60% 取組見直しを年度に1回以上実施 	60%	60%	B	<ul style="list-style-type: none"> 数学62%で目標を達成することができた。国語は57.1%で未達成となった。 課題の検討し、今後の取組の見直しを行っている。 	B	もう少し頑張っ取り組んでももらえればと思う。	想いを文字に起こす教育を大切にしていっていただきたい。今後ピブリオバトル等の機会を生かし、より一層、言語化・文字化の能力を伸ばして欲しいと考える。	B	<ul style="list-style-type: none"> 国語の目標未達成は次年度の課題として取り組む。 江戸川区学力向上PT実践は計画的に実践することができた。 	B	国語における対応は、課題を明確にし、取り組んでいただきたい。 CD層の学力向上については、区の施策も活用しながら、取り組んでもらいたい。	/次年度以降200字作文を中心に実践していく。
	「CD層の学力向上に向けた取組み」 ○放課後補習教室 ○数学総合検定	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室の拡張事業（数学・英語）の充実 数学総合検定を活用した放課後補習教室と教員連携指導 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習授業の実施130回以上 数学総合検定1、2年2単元以上実施 	40%	100%	B	<ul style="list-style-type: none"> 9月末までの回数は55回である。 数学総合検定は11月より実施する。 	B	適切な取組みと評価だと思う。		C	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室は年度末までにおおよそ計画通りの回数で実践できている。しかし、参加人数が少なく、次年度の課題となる。 数学総合検定は計画的に実践できた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は回数ではなく、参加人数に焦点をあてて、実態より成果や課題を模索し対応していきたい。 	
	「読書科の更なる充実」	江戸川っ子 読書科コンクールの参加と、ピブリオバトルの充実実践。	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ピブリオバトル年間1回以上の実施 よむYOMUワークシート30回実施 	60%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ピブリオバトルは3学期実施予定 よむYOMUワークシートは、前期15回は計画的に実施できた。 	A	積極的に実施してもらいたい		A	<ul style="list-style-type: none"> ピブリオバトルの実践は計画的であったが、学年ごとの取組であったため、次年度は中間評価をうけ学校全体でより一層計画的に実践する。 	A	学力調査において得点にはつながっていないが、授業の様子などを拝見すると、しっかりと実践できていた。	<ul style="list-style-type: none"> 学校として組織的な集約と計画を行い、実践は学年単位で行っていく。
体力の向上	「東京都体育健康推進校」の充実実践 ○教員の指導方法の工夫改善	令和6年度、令和6年度東京都体育健康教育推進校に係る校内研修を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ICT研修等指導力向上研修を年間5回以上実施 	70%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT研修の全体会は10月初旬で3回実施できている。 スキルだけでなく、授業力向上にもつながる授業研究を実施している。 	A	適切な取組みと評価だと思う。	昔と比較すると公園の減少、広場等の使用方法の制限など、自然と生徒が体力を向上させることが難しい世の中になってきた。また、仮設校舎の状況を考えると、計画的な実践は大切だと考える。是非本年度の成果をまとめ、今後生かして欲しいとお願いしたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校におけるICT活用は概ねしっかり取り組むことができ、実践できる教員も増えてきた。 ICT支援員の専門性も向上させ、より一層の充実を図る。 	A	2年間の成果を見届け、様々な成果や課題が明確化されてきたと思う。それらに音づく実践を、今後も大切に教育活動に生かして欲しい。仮設校舎でも工夫を凝らして結果を出せたことは評価している。	<ul style="list-style-type: none"> ICT支援員の専門性の向上も期待し、より実践的な内容に取り組んでいく。
	「東京都体育健康推進校」の充実実践 ○教員の指導力向上	令和5年度、令和6年度東京都体育健康教育推進校に係る授業研究を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業1回以上実施 授業研究3回以上実施 	70%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> 国語、保健体育、理科の3教科で実施。今後も計画的に授業研究を実施する。 研究授業においては、現在検討中。 	A	今後の声掛けをよりよくしてもらいたい。		A	<ul style="list-style-type: none"> 2月4日に江戸川区研究主任連絡会で成果等における2年間の実践を報告させていただいた。実践の意義を受け止め、今後も活用していきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 東京都体育健康教育推進校としての取組は、本年度で終了となる。次年度以降は、経験より培った取組をブラッシュアップし実践していく。 	
	「生徒の体力向上」 ○運動機会の充実	設校舎における、体力向上に向けた環境整備の実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 屋内トランポリンの設置。 ラダーの常設 	90%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 5月段階でトランポリン・ラダーの設置完了。 追加で握力関係のアイテムも設置完了 	A	適切な取組みと評価だと思う。		A				
共生社会の推進 教育に向けた	「合意形成と合理的配慮の充実実践」 ○組織的情報共有の充実	教員組織の生徒情報共有を活発化させ、授業ユニバーサルデザインの整備を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 校内特別支援部会を年間30回以上実施 生活指導部会での生徒情報共有30回以上 	50%	80%	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援部会9月末日まで13回実施 生活指導部会9月末まで15回実施 	A	適切な取組みと評価だと思う。	鹿本学園との取組は、とても素晴らしい実践なので、是非積極的なアナウンスを図り、よりよい共生社会の実現につなげる取組をして欲しいとお願いしたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援部会、生活指導部会においては30回を達成した。内容も適切に行い、早期発見、早期対応につなげることができた。 特別支援部会に特別支援教室の教員、sc（スクールカウンセラー）ssw（スクールソーシャルワーカー）が参加することで、より専門的、実践的な合意形成や、合理的配慮の充実を図ることができた。 鹿本学園に関しては、次年度中間の反省を受け、より一層アナウンスを心がけていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内における共生社会の実現に対する取組は評価することができる。ただ、ゴールがないので、今後も適切に組織的な取組をして欲しいとお願いしたい。 人間相互において支援しあえる実践力を身に付ける過程こそ重要であり、共生社会の実現に向け学校はよく取り組んだと考える。 学校間交流である鹿本学園との復籍交流は次年度よりよいものにして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課題としてしっかりと実践していく。
	「復籍交流の充実」	鹿本学園との間接交流の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 紙面交流年間2回以上 取組アナウンス2回以上 	80%	50%	B	<ul style="list-style-type: none"> 紙面交流に関しては毎月紙面交流を実施している 校内周知取組に関しては、今後実施予定 	B	適切な取組みと評価だと思う。		B	<ul style="list-style-type: none"> 拠点校だよりの発行回数は計画的に行った。ただ、内容に関してはより充実させていく必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 内容にもこだわり、他の拠点校だよりを参考に充実を図っていく。 	
	「特別支援教室のスポーツマン活動」	特別支援教室巡回拠点校としての情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 拠点校だよりの作成 年間3回（各学期最低1回以上） 	60%	70%	A	<ul style="list-style-type: none"> 9月末までに3回発行済みのため、本年度発行5回を目標と再設定する。 	A	適切な取組みと評価だと思う。		B				

不登校・いじめ対応の充実	組織的にいじめ、不登校生徒の対応実施を図っていく。	校内不登校対策委員会と校内特別支援部会の連携による未然防止、早期対応 校内いじめ対策委員による適切な実態対応	・校内特別支援部会を年間30回以上実施 ・生活指導部会での生徒情報共有30回以上	50%	70%	A	・特別支援部会9月末まで14回実施 ・生活指導部会9月末まで15回実施	A	適切な取り組みと評価だと思う。	学校の实情において、教員が責任感をもって取り組む姿勢を示していることは理解できる。そのうえで、民生委員をはじめ、地域の力を活用し、より未然防止・早期発見、早期対応を実践していただきたい。	B	・特別支援部会、生活指導部会においては30回を達成した。内容も適切に行い、早期発見、早期対応につなげることができた。 ・特別支援部会では、生徒の実態を把握し、適切な支援につなげることができ、いじめの未然防止にもつなげることで、生徒各々の本質的な困難以上に困難になることを予防できたと考える。 ・ヤングケアラーについては、生活指導部会、特別支援部会の双方で共通認識を深め、対応することができた。	B	いじめや不登校における課題は今後もしっかりと取り組んでもらいたい。地域としても協力をしていく。学校の状況を適切に報告してくれることで、取組や実態がわかるため、今後も共有していただきたい。 先生方もよく生徒を見守っているが、今後も継続的に実践していただきたい。	・教育課題として、しっかりと取り組んでいく。	
	ヤングケアラーにたいする教職員の理解を深め、適切な実践を図る	・全員面接の実施 ・教職員に対する研修の充実 ・民生委員会との情報共有	・生徒全員面接12月までに実施 ・研修年2回以上 ・民生委員との会議1回以上	60%	80%	A	・教員研修実施済み ・1年生生徒の動画視聴は実施済み ・聞き取りは12月までに実施予定	A	必要なことなので、しっかり取り組んでもらいたい 全員実施は大変だが、相談しやすくなる。			A	・SCの複数配置は、生徒対応において大変効果的であった。そのため、計画においては十分に達成することができた。	A	・学校の教員以外にも相談できる大人がいることは大切なこと。今後も適切な対応を継続していただきたい。	・次年度もSCの副酢配置を希望するとともに、本年度の成果を受け、適切な運営につなげていく。
	「未然防止のための取組（生徒の心のケア対応）」	・SC(スクールカウンセラー)による全員面接 ・本年度からのSC複数配置	全員面談実施 7月まで ・SC滞在 週2回程度		90%	90%	A	・SC全員面接は計画通りに実施済み ・SC複数配置、行内体制の構築も大方完了	A		生徒とSCとのつながりの第1歩としてとても期待できる。		A			
学校(園)の地域社会に開かれた実現	「土曜日の充実」 ○学校公開、道徳授業 地区公開講座、各種行事の充実	土曜授業(行事含む)の学校公開などを学校HP、TETORUでの参観呼びかける	土曜日学校公開(行事含む)年5回以上 参加状況の報告を学年だよりなどで発信	90%	90%	A	・土曜授業3回、運動会1回の4回実施。来校者人数は「学校だより」で周知を行っている。	A	TETORUの連絡が明確で助かっている。		A	・計画的な実践を図ることができた。 ・TETORUと学校HPの両輪は強いアナウンス力として効力を確認することができた。	A	・次年度もICTの活用を保護者や地域への発信ツールとして活用していく。		
	「スポークスマン活動の充実1」 学校HP・各便りの充実(教育活動の発信)	学校生活や食育に係る給食の情報など、学校生活を積極的に発信していく。	学校HPアクセス数 「目標15000」 「指標13000」	65%	100%	A	・学校HP 9月末までの閲覧件数 97,411アクセス	A	どんどん取り組んでもらいたい		A	・HPのアクセスは現段階(2月)で目標の15000アクセスを達成することができた。	A	・学校の情報発信が多いことは、保護者にとっても安心ができることにつながると考える。今後も適切に情報を発信し、開かれた学校を目指しつつ、安全性を確保していただきたい。	・本年度も目標達成を継続維持していく。	
	「スポークスマン活動の充実2」 学校HP・各便りの充実(教育や改築に関する会議の発信)	学校関係者評価委員会、学校評議員会、PTA本部役員会の内容広く発信していく	評議員 年3回 PTA本部役員会 年10回以上 関係者評価委員会 適宜		60%	100%	B	・評議員会第2回を10月実施予定 ・PTA本部役員会5回実施 ・関係者評価委員会3回実施	A	適切な取り組みと評価だと思う。		A	・PTA、評議員会ともに計画的に遂行することができた。 ・良い関係のなかで、様々な意見を交わし、健全な運営を行うことができた。	A	・PTA広報誌においてもスポークスマン活動の一環として活用していく。	
教育の特色ある展開	葛西第二中学校で学ぶ事に誇りを持ち、向上心と自立心を持った生徒の育成	「プライド8」とし、愛校心や自己実現に向けて行動できる生徒を育成していく。	学校だより年間発行数30回以上で、「プライド8」の取組を発信していく。	60%	90%	A	・学校だより17号発行済み ・プライド8特集は「第1号」と10月、3月発行号に掲載予定。	A	適切な取り組みと評価だと思う。	ボランティア参加人数を目標にすることは良いが、大切なことは生徒が積極的にボランティアに参加しているという実績だと考える。地域として、生徒の協力は本当に助かっている。	A	・学校だよりは2月4日発行で27号であるため、目標値は達成できると考える。 ・プライド8は適切に浸透してきていると考える。	A	・学校だよりの発行数、学年だよりの週1発行を働き方改革とバランスを取りながら計画していく。		
	オフィシャルボランティアの充実実践	・校内、校外のボランティア活動への参加を呼び掛け、参加生徒の意欲を向上させる。	・校外ボランティア(自転車盗難O・地域運動会など)への参加累計生徒人数200名以上	30%	80%	C	・自転車盗難O 25名 ・宇喜田・小島地区区民運動会18名 ・葛西まつり 22名(予定)	A	適切な取り組みと評価だと思う。			A	・本年度新たなボランティア協力要請に対し、適切に対応することができた。また、校内ボランティア「花いっぱい運動」も行い、多くの生徒が校内緑化、環境整備に協力した。	A	・人数にこだわらず、積極的にボランティアに参加する生徒を育ていく。	
	情操教育の充実	・外部人材を活用し、生徒の情操教育の充実をはかる。	・「二胡演奏会」1回 ・「ミュージカル俳優によるコンサート」1回	-	100%	-	・今後計画的に実施予定	B	とても良い取組で応援している。			A	・計画的な実践が図れている。本校の特色ある教育活動の一役として、生徒の情操教育の成果とすることができた。	A	・本年度の成果を次年度の学校運営方針に取り組み、適切に実践する。	